





以上はある高校生からの手紙である。この手紙が洛星の生徒諸君に対して、大学受験の渦に巻き込まれる事や、一点でも多く取ろうとして醜い程日夜あぐさる事から守る警鐘とならん事ある高校生とともにお祈りする次第であります。

(ちなみに、その高校生の名前を福井武彦という。通つては字校は自由学園である。)

もし君がどこかであのハンサムな男に出会つたら、「イヨ！君のあの手紙、洛星新聞で拝見させてもらつたぜ。」と声をかけてやつてくれたまえ。彼はずく君の良き友になつてくれるだろう。(要するに、学校の行事等にわきめもふらずに自分の好きな事をするのは余りにも我がまま事であつて、学校行事には積極的に参加しなければならぬ。生徒にその様な精神があつてこそ、真の洛星理想像が完成したと言えよう。校舎が増築されたから、洛星はまだ充実した、等と早合点する事はできない。それは上辺だけの姿であつて、やはり大事な事は、決められた事はやるというけじめある態度である。その精神が我々の心の中心にできる事を、今後の我々の目標としよふではないか。)

又、学校側でも生徒会側でも常に頭に重きをなす、運動場の排水工事、これも近い将来解消されるだろうし、いつの事になるか分らないがプールも造られるだろう。その上、洛星精神の源流をなすカトリック、その聖堂も造られ、宗教研究の設備も完全になりつつあるだろう。知識の源の図書館も拡大されるだろう。少し延びなやみさみのクラブ活動も立派な物に、又、延びたいだけ延びられるようになるだろう。他のワイアートル系の学校と、生徒の交換も出来るだろうし、生徒自体も社交的になるかもしれない。これにはいささか問題があるが。そのようにして、洛星が常に進歩向上の道にある為に、我々が我々の母校として誇れる為に、現在我々が解決しなければならぬ最も大きな荷物として負わされている「洛星の危機」を救わねばならぬだろう。否、救わねばならぬのである。そして未来の立派な洛星を夢見、かつそれを押し進めよう。